

COVID-19で求められる国立医療の検証 — 感染症専門看護師・各職域 —

座長 下村登規夫[†]第74回国立病院総合医学会
(2020年10月17日～11月14日
WEB開催)

IRYO Vol. 76 No. 3 (169-172) 2022

要旨

新型コロナウイルスは、2019年12月に中華人民共和国湖北省武漢市で発生した新種のコロナウイルスで、2020年3月11日にはWHOがパンデミックを宣言した。国際感染症は、政策医療分野の一領域であり、日本国内でのパンデミックは国難となりえる重大事態となった。今回の学会開催において、COVID-19に対するすべてがわかったわけではないが、緊急シンポジウムとして各職域（医療安全管理・感染症看護専門看護師（Infection Control Nurse : ICN）・薬剤師・臨床検査・放射線科・療育関連）からの対策についての講演をいただくこととした。これらの講演により、今後の各病院における全職域での連携強化の必要性を理解していただくことが重要であり、このシンポジウムが、その一助となれば幸いである。

なお、シンポジウム報告に際して、シンポジウムから、1年を超えていること、シンポジストの中に連絡できない方がいらっしゃることを踏まえて、このシンポジウムは、発表時の抄録を再度掲載し、シンポジストを列挙させていただくことで、Editorialとしてののみ、報告させていただくこととした。

キーワード COVID-19, 医療安全管理, 感染症専門看護師 (ICN), 薬剤師, 臨床検査

はじめに

新型コロナウイルスは、2019年12月に中華人民共和国湖北省武漢市で発生した新種のコロナウイルスで、2020年3月11日にはWHOがパンデミックを宣言した。国際感染症は、政策医療分野の一領域であり、日本国内でのパンデミックは国難となりえる重大事態となった。今回の学会開催において、COVID-19に対するすべてがわかったわけではないが、緊急シンポジウムとして各職域（医療安全・感

染症看護専門看護師・薬剤師・臨床検査・療育関連）からの対策についての講演をいただくこととした。

コロナ禍における国立医療に求められる 安全管理体制とは — 感染管理認定看護師、 医療安全管理者の立場から —

国立病院機構東京医療センター 医療安全管理部
医療安全管理係長 福元大介氏からは、コロナ禍における国立医療に求められる安全管理体制とは—感

国立病院機構さいがた医療センター 脳神経内科 †医師
著者連絡先：下村登規夫 国立病院機構さいがた医療センター 院長 〒949-3193 新潟県上越市大潟区犀潟468-1
e-mail : shimomura.tokio.wv@mail.hosp.go.jp
(2021年12月13日受付, 2022年2月25日受理)

Urgent Planning 'Beyond COVID-19 and after That' Special Symposium 2

Inspection of Functional in National Medical Center Around Spreading on COVID-19 : ICN and/or Each Medical Working Area

Chairperson : Tokio Shimomura, NHO Saigata Medical Center

(Received Dec. 13, 2021, Accepted Feb. 25, 2022)

Key Words : COVID-19, medical safety management, certified nurse specialist in infection control (ICN), pharmacist, clinical examination